

小学校社会科における地域特産物・特産品学習の構想

—秋田県を事例として—

大森果歩

1. 論文構成

序章 問題の所在と研究の目的

第1節 問題の所在

第2節 研究の目的と方法

第3節 論文の概要

第1章 小学校社会科における地域特産

物・特産品学習の考察

第1節 地域学習の現状

第2節 産業学習の現状

第3節 地域特産物・特産品学習の必
要性

第2章 地域特産物・特産品を用いた授

業実践の考察

第1節 各教科における地域特産物・
特産品を用いた授業の考察

第2節 秋田県における地域特産物・
特産品を用いた授業の考察

第3章 秋田県における地域特産物・特

産品を用いた授業構想

第1節 題材の設定

第2節 地域特産物・特産品を用いた
授業案

終章 本研究のまとめと今後の課題

2. 問題の所在と研究の目的

(1) 問題の所在

現在の小学校社会科に目を向けてみる

と、次の2点の問題点が見えてきた。まず1点目に、小学校社会科の第3・4学年に位置づけられている地域学習が地理的な内容に偏っているという点である。2点目に、小学校社会科の第5学年に位置づけられている日本の国土や産業の学習が、教科書では農業・水産業・林業・工業などの業種ごとに単元や項目が構成されているため、各産業が関連的に学習されない点である。

以上のことから、小学校社会科を通して、地理・歴史・公民的要素を盛り込んだ地域学習や、各産業を関連付けた産業学習を行うことのできる総合性を交えた新しい社会科の授業の構築が必要だと筆者は考える。そこで筆者は、強い関心をもった「一本のバナナから」という授業実践のように一つのモノから様々な方向へのつながりを認識させる授業を構築する。その題材に、各地域に数多く存在し、子どもたちにとって身近で興味を持って学ぶことができると考えられる地域特産物・特産品を活用する。これらは、その地域で昔から大切にされてきているものであるため、古くからの歴史や自然・風土と深く関わりがあり、子どもたちにも馴染み深いものである。これを授業に活

用することで子どもたちに多面的・多角的な思考を促し、総合的な学びが可能になる。さらに、実際に産地に行くなど体験的な活動を通して、リアルな事物と触れ合うこともできる。このように、地域特産物・特産品を授業に用いることで、学びの質を深め、新しい総合性のある社会科を構築することが可能であると筆者は考える。

(2) 研究の目的と方法

本研究の目的は、小学校社会科における地域学習や産業学習で一つのモノから多面的・多角的な考察を促すため、地域特産物・特産品を用いた授業方法に焦点をあて、秋田県の地域特産物・特産品を事例として授業を構想することである。

研究方法は、まず、地域学習と産業学習の意義を述べ、地域特産物・特産品学習の必要性を明らかにし、活用意義をウェビングで表す。そして、地域特産物・特産品を用いた授業実践を社会科や生活科、家庭科、総合的な学習の時間から収集し考察する。さらに、秋田県内に存在する地域特産物・特産品を分類し、授業実践を考察する。そのうえで、筆者の出身地である秋田県を事例にあげて小学校社会科における地域特産物・特産品を用いた授業を構想する。

3. 論文の概要

第1章では、本研究で扱う地域特産

物・特産品を授業に活用する意義を示し、筆者が考える新しい広がりのある社会科の授業構築の可能性を述べた。第1節と第2節において、現在の地域学習と産業学習の位置づけと意義について学習指導要領と佐島群巳氏や日本社会科教育学会の考えをもとに考察を行い、筆者が考える地域学習と産業学習の意義を3点あげた。第3節において、地域特産物・特産品の定義を明確に把握したうえで、特産物を農産物・水産物・畜産物・鉱物資源、特産品を郷土料理・伝統工芸品に分類し、日本全国における特産物や特産品を示した。さらに、特産物・特産品がもつ教材としての価値や学習要素をウェビングで表した。筆者の考察から、地域を象徴する特産物や特産品は、それぞれの地域の固有な風土や自然環境、文化を内包するものであり、それらを通して背景にある各地域について学ぶことができる貴重な教材であることを示した。この子どもたちに身近な「モノ」である地域特産物・特産品を学習の出発点とすることで子どもたちは、楽しく意欲的に授業にのめりこめる。そして、地域特産物・特産品の背景にある様々な要因や関連性を思考することができ、人々の努力や苦勞、思いや願いを感じ取ることができるなどの豊かな心も育んでいくことができる。この地域特産物・特産品を軸にして、新しい広がりのある社会科の授業を構築してい

くことを述べた。

第2章では、日本全国各地で行われている地域特産物・特産品を用いた授業実践を考察した。その際、社会科に限らず生活科や家庭科、総合的な学習の時間における様々な授業実践を調べて考察することを通して、地域特産物・特産品を用いた授業にどのような活用方法があるかについて考察を加えた。小学校社会科における授業実践を分析した結果、次の2点の課題点を挙げた。1点目に、国民生活と人々の関わりについて学ぶことに執着しすぎ、地域学習の土台となる地域の自然環境や歴史・伝統について学習することが疎かになっている点。2点目に、地域の特産物・特産品を授業で活用していても、それを日本全国に広めたりアピールしたりするといった方向性の授業に偏りがちな点。この課題点をふまえて筆者の授業構想につなげていった。小学校生活科では、沖縄県古宇利小学校のさつまいもの授業実践を取り上げた。この実践のように、地域特産物・特産品を学習の軸に置き、そのもの自体から自分たちが住む地域の良さや特色・文化などについて再認識したり、より追究したりできる活用の仕方で授業を構築していくことを述べた。小学校家庭科では、子どもたちに最も身近な日常の食生活であるごはんやみそ汁を授業化しており、地域の特産物・特産品を取り上げるものではなか

ったため、中学校技術家庭科の家庭分野における「そば打ち名人になろう」の岩手県の実践を取り上げて考察した。この家庭科での実践の中にも、社会科と関連している地域の環境や文化についての内容が盛り込まれているように、地域特産物・特産品を扱う授業は深く広がりのあるものだと述べた。小学校の総合的な学習の時間では、群馬県沼田市立平沢小学校での実践『伝えよう わたしたちの町の「白沢りんご」』と福島県大沼郡三島町立三島小学校での実践『特産品の「桐」の学習を通して、地域の「人」「物」「自然」について学ぶ～ 総合的な学習「会津桐とわたし」～』を考察した。その結果、筆者が構想する授業では、子どもたちに身近な地域特産物・特産品を軸にこのものが成り立っている自然的・社会的要因を深く追求し、そこに携わっている人々との関わりや体験的な学習を通して、豊かな心を育む学習活動とするために、単元を見通した授業計画とすることを述べた。そして、秋田県の地域特産物・特産品について調べ、各市町村地図に示した。また、秋田県で推進されている「ふるさと教育」についても触れ、秋田大学教育文化学部附属小学校での授業実践を考察した。

第3章では、筆者の出身地である秋田県の地域特産物・特産品である「きりたんぼ鍋」と「稲庭うどん」を事例に取り

上げ、小学校社会科における地域特産物・特産品を用いた授業構想を行った。秋田県大館市の特産品である「きりたんぼ鍋」を題材とし、第4学年を対象とした授業案では、「大館市の魅力がいっぱい宝鍋！」という単元名で構想した。この単元を通して、「きりたんぼ鍋」から大館市の自然事象や社会事象について考え、理解し、最終的にイメージマップに表し、まとめることができるようになることをねらいとした。単元構成としては、子どもたちの興味・関心を引くために授業の始めで実食させ、そこから地域の自然事象や社会事象について追究し、考えわかったことをイメージマップに表す。教科書や指導書に乗っ取った授業よりも、目の前にいる子どもたちのことを考え、子どもたちが楽しく学べる社会科の学習をこの地域特産物・特産品を活用した授業で構築していきたい。秋田県湯沢市の特産品である「稲庭うどん」を題材とし、第5学年を対象とした授業案では、「我ら稲庭うどん劇団！」という単元名で構想した。この単元を通して、「稲庭うどん」から湯沢市の自然事象や社会事象について考え、そこから派生してわかる「川連漆器」の特徴についても理解し、最終的に、劇で楽しく表現し発表することができるようになることをねらいとした。単元構成としては、子どもたちの興味・関心を引くためにうどんの食べ比べクイズ

から授業を始め、「稲庭うどん」から湯沢市の自然事象・社会事象、歴史や伝統文化などにもふれ学習する。また、食器として使用される「川連漆器」についても学習し、職人の技や受け継がれ守り継がれてきた伝統、地域の人々の思いや願いについて追究する。

4. 今後の課題

ここでは、今後の課題について3点述べていく。まず1点目は、授業実践の考察を行う際、分析の視点を設けてより深く実践を分析したり、それぞれの実践を比較したりしながら考察することができず、不十分な考察でとどまってしまった点である。2点目は、秋田県の地域特産物・特産品や教育の方向性に終始してしまった点である。日本全国で行われている授業実践や教育指針をもっとあらゆる角度から収集し、分析・考察することを通して、秋田県内の特産物・特産品に焦点をあてることが必要であったと考える。3点目は、地域特産物・特産品を扱う授業の構想にとどまり、授業を実践することができなかった点である。今後の学校現場において、今回構築した地域特産物・特産品を活用した授業を実践していきたい。